

平成21年 5月25日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520492

研究課題名（和文） 平安貴族の都市的な居住と住宅の総合分析

研究課題名（英文） Comprehensive Analysis of Heian Aristocratic Urban Dwellings

研究代表者

西山 良平 (NISHIYAMA RYOHEI)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号：30135503

研究成果の概要：

本研究は、平安貴族の都市的な〈居住形態と住宅建築〉を課題とする。第一に、同居など相続人と被相続人の親密な関係が伝領の契機とする見方などを提示し、第二に、寝殿造の成立・展開を近世の公家住宅にまで視野を拡大して把握した。第三に、宇多院・朱雀院や堀河院など里内裏系邸第を詳細に検討し、第四に、右大臣藤原実資家の制裁権を検非違使や他の家との相関から分析した。第五に、平城京・宇治・鳥羽・鎌倉を取り上げ、平安京と比較検討した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	570,000	3,870,000

研究分野：日本古代・中世史

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：平安京・都市・貴族住宅・居住・婚姻居住・伝領・寝殿造・小規模宅地

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平安貴族の都市的な〈居住形態と住宅建築〉を課題とする。従来、居住の論点では平安貴族の婚姻居住規制のあり方が、妻方居住・夫方居住・新処居住などの各々の比重とその変遷に着目して検討され、多大な成果を蓄積する。しかし、婚姻居住に局限され、それ以外の問題の究明が不十分である。

(2) 住宅の分野では、建築史を中心に寝殿造の成立と構造などが分析され、儀式論と婚姻形態論が対立する。一方、考古学の発掘により、平城京・平安京では貴族住宅の遺構が検出されるが、寝殿造との接合が不十分である。また、邸第の法的性格のあり方などは考察が手薄である。

2. 研究の目的

(1)本研究は、平安貴族の都市的な<居住形態と住宅建築>の総合分析を課題とし、この分野から平安時代や平安京を認識する視座を獲得する。

(2)第一に平安貴族の居住形態であるが、従来、この問題は婚姻居住規制に変換され検討されるが、本研究では平安貴族が相互に邸第を融通・貸借する事実に着目する。この事実と婚姻居住の変遷の接合がさらに課題である。

(3)第二に貴族住宅とくに寝殿造の成立を解明する。寝殿造は10世紀中ごろから11世紀初頭ごろに成立するが、史料が希少で、成立の実態は不明である。

(4)第三に、貴族住宅の発掘事例を綿密に分析する。近年、平安京では冷泉院や高陽院など特定の貴族住宅や、方一町規模宅地が調査され、数多くの新鮮な知見が蓄積される。発掘事例は文献史料の希少を相当に補完する。

(5)第四に、貴族の邸第と<外部>との関連を対象とする。邸第の門は<外部>との境界であり、国家との関係では法的な自律性の程度などが課題である。

3. 研究の方法

(1)第一の居住の問題は従来、日本史の分野で検討される。一方、第二の寝殿造は建築史で分析が遂行され、第三の発掘事例は考古学の発掘調査で検討される。第四の邸第の法的性格は日本史の専門領域である。したがって、本研究は日本史・建築史の研究者で組織される。また、発掘事例の検討には考古学の方々に研究協力者としてご参加いただく。日本史・建築史・考古学・庭園史の諸分野の協同で、平安貴族の居住と住宅を総合的に分析する。

(2)具体的には、第二の寝殿造の論点は大臣

大饗や臨時客などの儀式や、婚姻居住のあり方である。これらは日本史の領域と言え、建築史と日本史の共同作業で解決を目指す。

(3)第三の貴族住宅の発掘事例は建築史的あるいは文献的な分析が充分ではない。考古学と共同で、発掘事例を精緻に検討し、従来の寝殿造を検証する。

4. 研究成果

(1)第一の課題では、伝領の観点から貴族の邸第のあり方を検討し、従来の邸第論の問題点を探索した。従来の伝領論では、女性・男性の性別が重視されるが、議論に行き詰まり感があり、同居など相続人と被相続人の親密な関係が主要な契機とする見方を提示した。また、貴族の居住が「婚姻居住」論の分野で発展するので、婚姻居住規制の問題と、婚姻居住を批判する「寄住」論を合わせて検討した。

(2)第二の課題では、寝殿造の成立・展開を近世の公家住宅にまで視野を拡大して把握した。そこから寝殿造の本質を不変の寝殿—アプローチ—前庭の配置構成とし、その視角から成立を見通した。また、寝殿造論に大きな影響を与えた裏松固禪の業績を分析し、今後の課題を提示した。

(3)第三の課題では、①宇多院の発掘を取り上げ、最近の調査を含めて、宇多院の遺構を根本的に再検討した。また、宇多院の所在に関する文献史料も検討し直し、問題点を指摘した。②1973年発見の朱雀院跡の掘立柱建物を当時の測量技術などを勘案し、再検討した。その結果、調査報告の内容を方角・建物の規模などで修正し、正方位の大型の建物が復元可能となった。③未周知の平安京左京四条三坊四町を紹介し、この地点が藤原公任の

四条宮の蓋然性を強調した。④邸第の内部の土器などの出土遺物を厳密に検討し、その点から邸第の内容を考察した。⑤高陽院・冷泉院や堀河院など里内裏系邸第の調査を比較・対照し、庭園と邸第の関係を分析した。とくに、堀河院は最近の発掘で新知見が蓄積され、従来の遺構の見直しを行った。⑥平安京と平泉の寺院庭園を取り上げ、両者の密接な類似性を指摘した。

(4) 第四の課題では、貴族の邸第の内部と外部との連関を、右大臣藤原実資家を素材に検討した。すなわち、実資家とその周辺で発生した犯罪の処罰のあり方から、実資家の制裁権を検非違使や他の家との相関から分析し、実資家の内部と外部の連関を考察した。また、貴族の邸第から多様な宗教遺構・遺物が出土し、その位置づけが必要となるので、宗教施設・行為を文献史料から網羅的に収集した。

(5) 第一から第四の課題以外に、平安京以外の都市を取り上げ、相互の比較に留意した。①平城京の宅地の構造と変遷を検討し、平安京との差異を指摘した。②宇治の都市遺跡を文献と発掘の両面から検討し、11世紀後半に画期を認知できると評価した。従来は12世紀初頭が重視されるが、宇治の発展過程が微細に考察可能となった。③鳥羽や④鎌倉の武家屋敷やの時期的な変遷を取り上げた。鎌倉は実地に調査し、遺構・遺物の認識を深めた。

(6) さらに、貴族の邸第論から平安京都市論の再考察が必至となり、邸第の対極の小規模宅地―行門・戸主制を平城京にまで立ち返り検証した。その結果、あらためて平安京を多面的に認識する必要性を痛感した。

(7) (1) は従来の伝領論を大きく超え、

今後の展開が期待される。(2) は寝殿造の理解に見直しを迫り、論者の反応が待たれる。

(3) は貴族住宅の遺構を始めて再検討し、とくに宇多院・朱雀院は既往の成果を塗り替えた。里内裏系邸第の集中的な分析は庭園だけでなく、寝殿造の実体を解明する。(4) はさらに検討を加える必要があるが、宗教関係の発掘・文献両面の考察は従来皆無である。

(8) 以上の成果は、各々を論文に仕上げ、報告書を刊行する計画を進行中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 西山良平、撰関期の身分集団と訴訟・復讐、臈谷寿先生古稀記念論集・平安京とその時代(仮題)、2009年(予定)、査読無
- ② 藤田勝也、近世二條家の屋敷について、日本建築学会計画系論文集、636号、455-461頁、2009年、査読有
- ③ 前田禎彦、平安時代の訴訟・検非違使庁の裁許と執行、大山喬平編・中世裁許状の研究、31-44・231-263頁、2008年、査読無
- ④ 藤田勝也、建築史からみる婚姻儀礼、小嶋菜温子編・王朝文学と通過儀礼、74-88頁、2007年、査読無
- ⑤ 前田禎彦、看督長小考―撰関期の官司と社会集団一、国史学、191号、3~26頁、2007年、査読無
- ⑥ 西山良平、罪と穢れ―〈家を焼く〉を中心として一、列島の古代史7、210-232頁、2006年、査読無
- ⑦ 藤田勝也、「寝殿図」の成立経緯、日本建築学会計画系論文集、603号、161~166頁、2006年、査読有
- ⑧ 藤田勝也、「古図 両中門」「両中門図」

について、日本建築学会計画系論文集、
606号、175-181頁、2006年、査読有

[学会発表] (計 2件)

- ① 藤田勝也、寝殿造とは、京都市埋蔵文化財研究所文化財講演会、2008年10月4日、京都アスニー
- ② 西山良平、貴族の居住と住宅、京都市埋蔵文化財研究所文化財講演会、2008年10月4日、京都アスニー

[図書] (計 2件)

- ① 西山良平・藤田勝也編著、京都大学学術出版会、平安京の住まい、2007年、376頁
- ② 藤田勝也編著、中央公論美術出版、裏松固禪「院宮及私第図」の研究、2007年、324頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西山 良平 (NISHIYAMA RYOHEI)
京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授
研究者番号：30135503

(2) 研究分担者

藤田 勝也 (HJITA MASAYA)
関西大学・工学部・教授
研究者番号：30202290

前田 禎彦 (MAEDA YOSHIHIKO)
神奈川大学・外国語学部・准教授
研究者番号：80367250